

No.8 「折口信夫」②

おはようございます。校長先生の声、届いていますか？

さて、今回はいろは歌について、何か気づいたことなどを募集しました。またたくさんのお友だちが校長室前のボードに書きに来てくれたり、いいねのシールを貼りに来てくれました。ありがとうございます。

うみのおくやまの「ゐ」

ゑひもせすの「ゑ」など見たことのないひらがながあるよ。という意見がありました。これは、実はわ業のゐとゑなんです。今のひらがなは46文字ですが、なんと昔は、280文字ほどのひらがな(変体仮名)がありました。「あ」だけで5種類ほどあり、「か」などは9種類ぐらいの書き方があったそうです。あまりに多すぎてややこしいということで、今から120年ほど前に今の46文字に減らしました。昔の小学生は覚えるひらがなが多くて大変ですね。

また、この敷津小学校では1年「い」組と言います。どうして「1」でも「あ」でもないのでしょうか。それは、このいろは歌から来ていると言われています。もし子どもの数が多ければ、1年い組だけでなく、ろ組は組と増えていったのですね。すごいことに気づいたお友だちに拍手です！

では担任の先生、またいろは歌を黒板に貼ってもらえますか。よろしくお願いします。

いろはにほへと ちりぬるを
わかよたれそ つねならむ
うみのおくやま けふこえて
あさきゆめみし ゑひもせす

では、もう一度校長先生と読んでみましょう。
校長先生に続いて読みます。

いろ、ちり、おくやま、こえて、あさ、ゆめ
などの言葉を見つけることはできたお友だちもいましたね。すばらしい発見です。

さて、このいろは歌は文字を適当に並べただけではもちろんありません。歌ですからちゃんと意味があります。どんな意味でしょうか？

では、少し意味がわかるような読み方をしてみます。(漢字で書くとより意味がわかりやすくなります)

色は匂へど 散りぬるを
我が世誰ぞ 常ならむ
有為の奥山 今日越えて
浅き夢見じ 酔ひもせず

しかしこれでもよく意味がわかりにくいですね。そこで折口信夫先生の出番です。折口先生などはこのいろは歌をこのように考えました。

色美しく咲く花も、いつかは散ってしまう
私たちも、いつまでも生きられるわけではない
迷いの多い人生の苦しみを、今日乗り越えて
儚い夢を見ることも、
酔いしれることもするまい

今から1400年位前に作られたこの歌を、折口先生はこのように考えたのですね。もちろん、色々な先生が色々な考え方をされています。

この歌の有名なところは、遊びの中で使われるだけではなく、江戸時代の学校では、ひらがなを覚えるために、この歌を使っていたことも有名です。いまの小学校では、どうやってひらがなを覚えますか？そう、あいうえおで覚えますよね。それが昔はいろは歌で覚えたのです。なぜでしょう？少し周りの人と相談してみてください。

なんと、このいろは歌は、ひらがなすべてを1回ずつ使って、文章にしたので、ひらがな練習に使えたのですね。本当に1回ずつ使っているのでしょうか。では、今からいろは歌に「あ」から順番に○をしていきましょう。担任の先生、ご協力よろしくお願いします。

なんと、本当にあ～をを1回ずつ使って、意味のある文章ができていましたね。どうでしょう、みなさんも、こんな文章をつくれますか？

さて、こんなすごい歌をつくった人は誰なのでしょう？これも色々な説があるのですが、折口先生は「柿本人麻呂」という人物ではないかと考えておられます。

ただ、折口先生は、作者を柿本人麻呂説とすると、このいろは歌少し恐ろしい歌ではないかと言っています。普通に読んだのでは、その恐ろしさはわかりません。

実はこのいろは歌には恐ろしい呪いの言葉が、暗号のようにうめ込められていると言われているのです。

今週の宿題は、このいろは歌の暗号の秘密を解いてみてください。ある、読み方をすると、恐ろしいメッセージが浮かび上がってきます。間違っても構いません。どんどん皆さんの「謎は全てとけた！」の言葉を聞かせてください。